



◇ 日本モンキーセンター・京都大学霊長類研究所 霊長類一日野外実習

日 時： 8月10日(木) 9:30 ~ 16:00

場 所： 日本モンキーセンター(JMC) 京都大学霊長類研究所

参 加： 生徒21名、教員1名

■友永雅巳先生(京大霊長研教授、JMC学術部長)、高野智先生(JMC学術部研究教育室長)、新宅勇太先生(JMC学術部キュレーター)のご指導で、霊長類一日野外実習を体験しました。

■午前中は、フクロテナガザル、アヌビスヒヒ、ジェフロイクモザル、ポリビアリスザルの4種の霊長類の生態観察。歩き方、走り方、樹上での移動、手・足・尾の動きを注意深く観察しながら、自然界における生息域や食性との関連性について、推測してみました。

■観察会終了後、高野室長より、形態の進化と環境適応に関わるお話を、さらに新宅キュレーターより、コンゴにおけるボノボの保全活動のお話をうかがいました。

■午後は徒歩で霊長研に移動し、友永教授より比較認知科学分野の研究に関わるお話をうかがいました。その後、チンパンジーたちが生活する飼育施設(通称:チンパンジータワー)を見学し、チンパンジーたちが数字を活用する実験の様子を観察しました。



写真説明： ポリビアリスザルの親子(上段)、 新宅勇太キュレーターのお話(下段左)

友永雅己教授のお話(下段右)

<参加した生徒の感想>

■観察をして、カラダのつくりから生息場所の推測ができることを知って、おもしろいと思いました。熱帯雨林の場合、同じ地域に生息していても、樹上の位置で生活の場の住みわけをしているから多様な霊長類がひとつの地域に生息しているんだとわかりました。木の上にもどの高さにいるかによってからだの特徴が変わるんだと気づきました。（3年女子）

■今日のモンキーセンター及び京都大学の研究所の見学をして、霊長類について様々なことを学べたり、実際に研究所内に入るなどの貴重な体験をしたりすることができました。最初の講義と観察では、サルがどのように進化してきたのか、どうしてそのような進化をしたのかを詳しく知ることができました。次の講義ではボノボを保護するためには現地の人々とバランスを取って生活することが大切ということがわかりました。また、世界のサルの半分以上が絶滅の危機にあることを知り、とても驚きました。

午後の霊長類研究所では、一瞬で数字を覚えるなど、チンパンジーが非常に高い知能を持っていることが実際に見て知ることができ、とても驚きました。見ていてとても興味深かったです。今日一日で霊長類についてとても興味深いことをたくさん知ることができ、参加してよかったと思いました。（1年男子）

■今回のリサーチツアーを通して、今まであまり触れることがなかった霊長類についての関心が高まるとともに、私たちのグループのSGH研究のテーマである「熱帯雨林の保全問題」について、理解を深めることができました。

午前中のモンキーセンターでの講義では、サルの体の特徴からその生活環境や食べ物の特徴が推測できることを知り、驚きました。また、霊長類の保全についての講義では、ただ森林を保全するだけでは現地の人々の生活の向上と矛盾することがあるため、伝統的な手法もしくは現地の人々の不安を解消できる方法で、あくまでも自然と人々の生活のバランスを整えることを目的として森林保全を行うという、自分にはなかった意見を聞くことができ、視野が広がりました。この考え方はぜひ私たちのSGHの研究の中にも取り入れたいと思いました。

午後からの京都大学霊長類研究所での研究の見学では、チンパンジーの認知能力の高さが衝撃的でした。「もしチンパンジーに人間と同じようなもしくはそれ以上の認知能力があることが分かれば、人間と同じ様な育て方をすることで、言語を用いるなど人の様にコミュニケーションをとることも可能になるかもしれない」などと想像してみたのですが、実際は違うようです。多くのチンパンジーは、数字ひとつひとつの形と数という概念がリンクしておらず、ただ順番を記憶する能力が長けているように見えました。数字を記号として認識しているだけならば、もし手話を教え、仮に人と会話できたとしても、それはコミュニケーションがとれたという訳ではなく、コミュニケーションをしている様に見えるために覚えさせられた手の振り、つまり「芸」をしているだけに過ぎないのではないかなどといった様々な想像が膨らむ体験でした。

初めての霊長類に関するリサーチツアーでしたが、考えていた以上に充実した時間を過ごすことができたので、もしまた機会があれば参加したいです。（2年男子）

■私は、今日初めて日本モンキーセンターにおじゃましました。今回は、たくさんのごと学んで、新しい発見ができました。私は、学校のSGHの学習で、熱帯雨林とそこに棲む霊長類の保全活動の研究をする予定ですが、お話を聴いて率直に「やはり難しいことなんだな」と感じてしまいました。

日本モンキーセンターでは、飼育されているサルの種類の多さに驚きましたし、間近で見る迫力はなんとも言えませんでした。そして、なんといっても、京大霊長研では本当に貴重な見学をさせてもらいました。実際にポポちゃんが学習しているところは本当に驚きました。また、研究所の方々との信頼関係や愛情が伝わってきました。

ちなみに、ビジターセンターで数字のトレーニングをさせてもらったのですが、とても難しく、

完敗でした。今日は、たくさんの方々のご協力があり、貴重な見学、貴重なお話を聞かせてもらって本当にありがとうございました。今日たくさん学んだことをこれからの SGH 活動に活かしていきたいです。 (2年女子)

■私にとって、今日の JMC での活動は 2 回目の参加でしたが、大体の知識があったので、より細かいことにも注意して臨むことができ、新しい発見がありました。特に霊長類の体の構造について見る事では、前回は見切れなかった行動まで細かく見ることができました。また、種の保全についての話ではこれまでも同様の話を聞いたことがあって、途中までは本当に保全は可能なのか疑問を持っていましたが、現地の人々の生活を尊重することや、伝統的な生活を取り戻し保全との両立を目指すことは、「保全」がただのエゴになることなく効果的だと思いました。

私は現在、東山動物園でのゴリラの行動観察を続けています。霊長類の研究をする者として、対象の個体の個体数などの状況についても知っておくべきだと思いました。 (2年男子)

■今日は 2 回目だったので、知識を補強するような思いで参加しました。日本モンキーセンターでは、2 度目の「4 種の猿の特徴を見いだす体験」をしました。前回よりも的確に行うことができました。高野先生に「よくかけている」と誉めていただけ、とても嬉しかったです。その体験を行うなかで、ジェフロイクモザルの親指がないことや、アヌビスヒヒが手のひらとかかをつけずに歩くことなどの特徴を見つけることができました。とても興味深かったです。

また、新宅先生からボノボの保全についての講義を受け、保全の基礎知識を得ることができました。絶滅してしまった霊長類が 2 種もいることや、個体数の減少には森林伐採だけでなく、たくさん原因があることを知り、驚きました。

京都大学霊長類研究所では、チンパンジーが数字を順番に押していくというシーンを再度見ることができて、嬉しかったです。日本モンキーセンターで実際に体験すると難しさが改めてわかりました。今日体験したことを、今後の霊長類研究や SGH の活動に活かしていきます。ありがとうございました。 (2年男子)

■今回の現地実習に参加し、霊長類の生態や現在行われている研究の一端について知ることができました。さまざまな種類のサルや研究の様子を間近に見て、種の尊さを感じ、また、彼らの持つ能力の高さに驚かされました。

研究所というと実験動物を檻に閉じ込めて観察するイメージを持っていましたが、それは京大霊長研において覆されました。研究や調査をする方の動物に対する真摯さのようなものを感じました。これから SGH でボルネオ島の環境保全を考えて行く上でも貴重な体験と学びを得ることができました。これからもっと霊長類や自然環境についての知識を身につけていきたいと思いました。 (2年女子)

■今回の研修で思ったことは「やはり自分の好きなことをとことん極めることができるのは本当に幸せである」ということです。先生方も飼育員さん方も目がキラキラとしていました。自分も将来とことん没頭できる仕事に就きたいと思いました。

自分自身大学は文系志望で生物は選択していませんが、今回の研修は本当に楽しかったです。我々人類がどのように生まれたか、どのような動物から進化して来たか、などを真剣に考えることが出来る大切な機会になりました。我々人類が何度も繰り返して来た戦争、この起源を霊長類研究によって解明することができる。そんなことは想像もつきませんでした。友永先生のお話をうかがい、確かになと思いました。

自分は SGH の課題研究で「ボルネオ島の環境保全」について調べます。今日新宅先生がおっしゃっていたように「なぜ、環境保全をするのか？」という根本的な疑問から考えていかななくてはならないこと、この問題に正解はなく、人々によって感じ方は違うから、非常に難しい方程式を解かなくてはいけないことを実感しました。これらを踏まえて意義のある課題研究をします。

今日はありがとうございました。 (2年男子)

■今回2度目の参加となりましたが、1年間の研究を経てから受けてみると、また違った視点から講義を受けることができました。なかでも印象に残っているのは、友永先生に質問させていただいた、チンパンジー等、人間以外の霊長類の他人殺しに関する先生からのコメントです。「サルを知ることはヒトを知ること」と高野先生がおっしゃっていたように、他の霊長類の子殺しなどの事例を考えていくと、世界で怒っているテロや身近な殺人事件などの根本的な背景が見えてくるのではないかとなんとなく思ったことがきっかけでの質問でしたが、まずチンパンジーでは自分の配偶者を身体的に傷つけるような行為はとらないことや、特にこれといった理由もなく殺しを行うことはないという事実を教えてくださいました。さらに、ボノボの例もふまえて、人間は攻撃性と穏やかに解決する二面性を持っているのではないかとということも考えられると教えていただき、大変興味深いものでした。

私自身、最近では社会学に興味をもち、将来どのようなことをしていけるのだろうかと考えていたこともあり、人間というものを考えていく上での近縁種である霊長類のチンパンジーなどの研究もしていくことに大きな意義があると再発見できました。大変貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。 (2年男子)

■今日の研修では、霊長類を専門とする先生の話聞くことが出来て、とてもいい経験になったと思います。特に、京都大学霊長類研究所に行き、貴重な話を聞かせていただき、認知実験の様子を見たりすることが出来たことはとても印象深く、いい勉強になったと思います。今日学んだことを、これからのフィールドワークなどにも生かしていけるようにしたいです。 (1年男子)

■今日の一日実習では、サルが自然に適応するためにどのように進化して行ったかが、実際にサルを見てみることで、高野先生の説明でよくわかりました。自分をはじめ、「木の上の方にいるのは体重の軽い小さいサルだろう」と思っていたので、小型のサルは虫を食べるためにあまり高いところにおいて、大型のサルが木の高いところで果物を食べていると知った時は驚きました。

京都大学霊長類研究所ではアキラを観察してみて、はじめは壁を叩いてきて凄く驚いたけど、問題に取り組んでいる様子から、デタラメではなくしっかり順番を考えている、ということがわかり、はっきりとした知性を感じることができました。今日一日、モンキーセンターに行っただけでは分からない貴重な体験ができてとても楽しかったです。 (1年男子)

■東山動物園の講座を受けて霊長類についての知識が深まりました。霊長類という枠の中にも鼻の形によって分類が分かれていたり、体の形や器官によって住む場所や食べ物に変化があったりと奥が深いなと思いました。僕はチンパンジー、ボノボなどの高い社会性を持った霊長類は考えが少し読める気がしてさらに興味が湧きました。貴重な体験をありがとうございました。

(1年男子)

■午前中のモンキーセンターでは、高野先生と新宅先生の2人の霊長類学者の方のお話をきくことができました。高野先生からは、霊長類の多様性についてのお話をうかがいました。同じ霊長類でも生育環境によって身体づくりが大きく違って、霊長類ひいては生物の生き延びる強さを感じました。新宅先生からは霊長類の保全についてのお話を伺いました。コンゴでは人間による狩猟などによってボノボの数が減っているということを知り、霊長類を研究する者として悲しく思いました。

午後は霊長類研究所で友永先生のお話を聴きました。人間とチンパンジーの認知についてお話していただいたり、実際にチンパンジーの実験の様子を見せてもらったりしてとても面白かったです。今回学んだことを今後の進路に活かしていきたいです。ありがとうございました。

(3年男子)